

令和3年度 第1回
希望郷いわてモニターアンケート

ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

令和3年8月
岩手県保健福祉部地域福祉課

ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

I アンケートの趣旨

県では、「すべての人が個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。

本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

II 調査実施期間

令和3年6月25日（金）～ 同年7月9日（金）

III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

IV 調査対象

令和2、3年度希望郷いわてモニター 203名

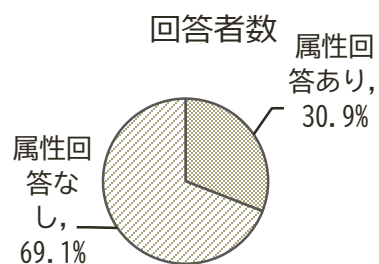
V 回答者数

165名

VI 回答率 81.3%

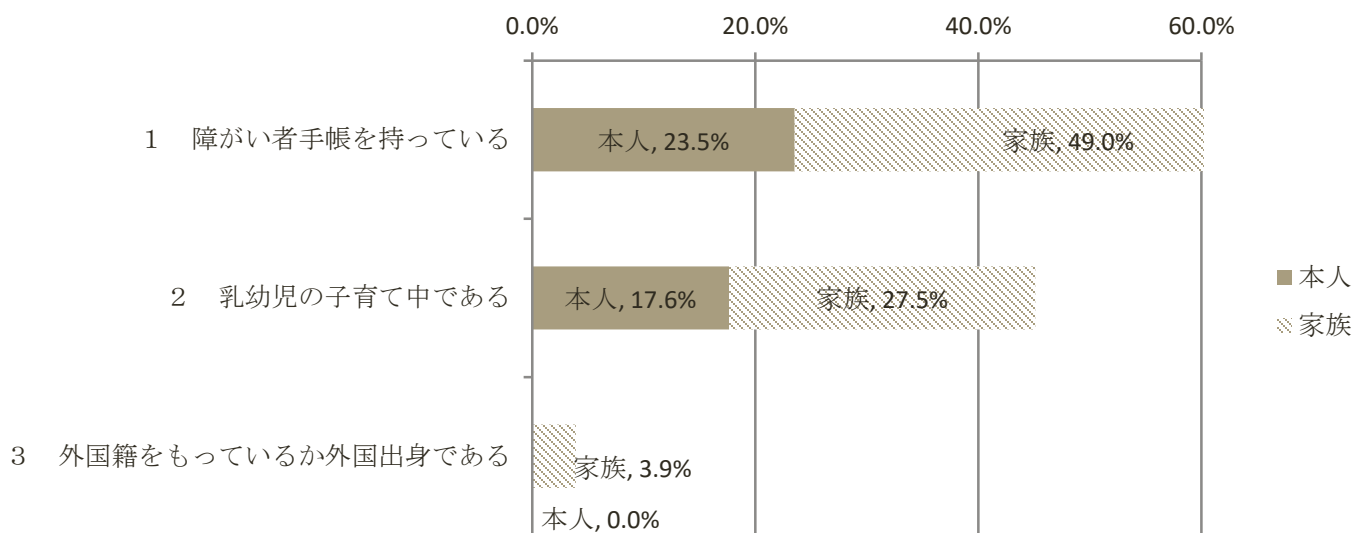
回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	51	30.9%
属性回答なし	114	69.1%
合計	165	100.0%



<属性の内訳> (重複あり)

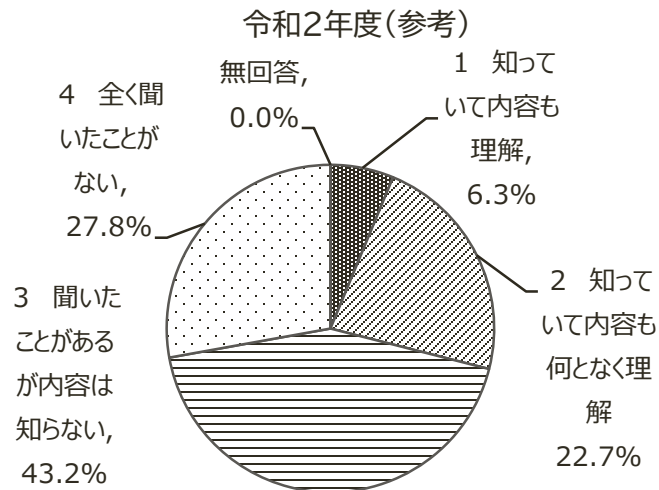
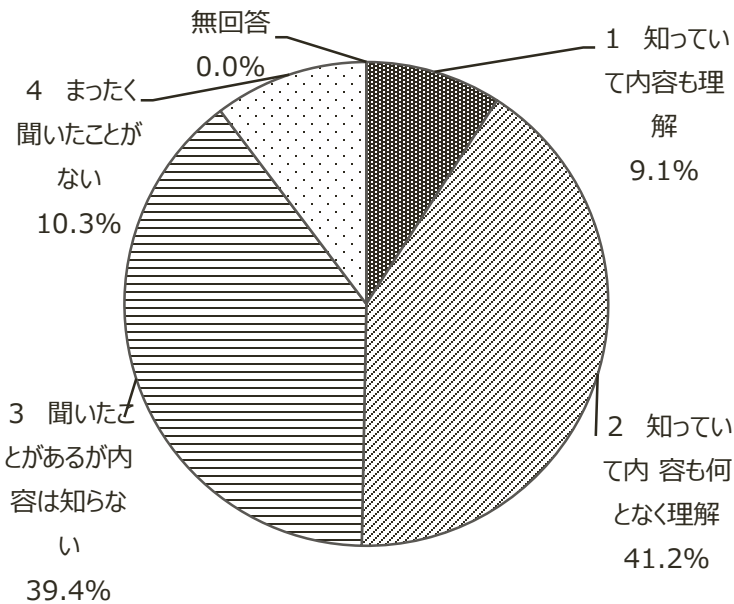
	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	12	23.5%	25	49.0%	37	72.5%
2 乳幼児の子育て中である	9	17.6%	14	27.5%	23	45.1%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	2	3.9%	2	3.9%
合計	21	41.2%	41	80.4%	—	—



問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	15	9.1%	11	6.3%
2 知っていて内容も何となく理解している	68	41.2%	40	22.7%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	65	39.4%	76	43.2%
4 全く聞いたことがない	17	10.3%	49	27.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	165		176	100.0%



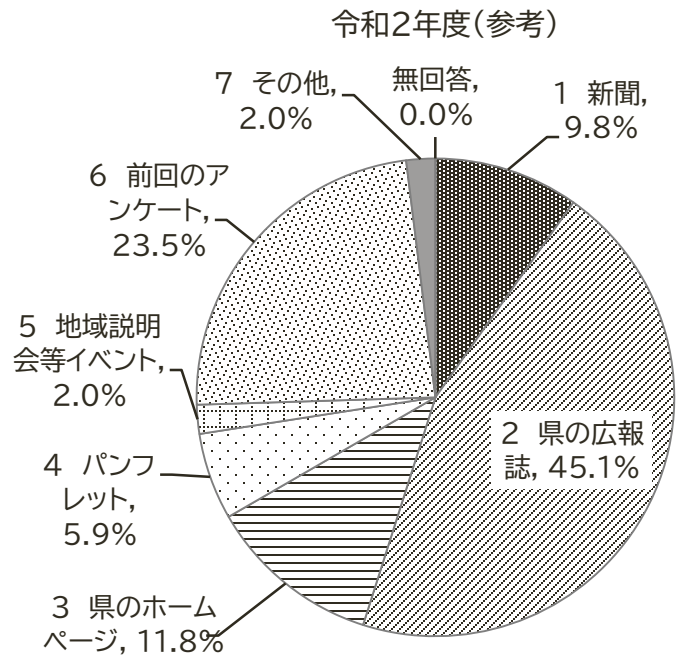
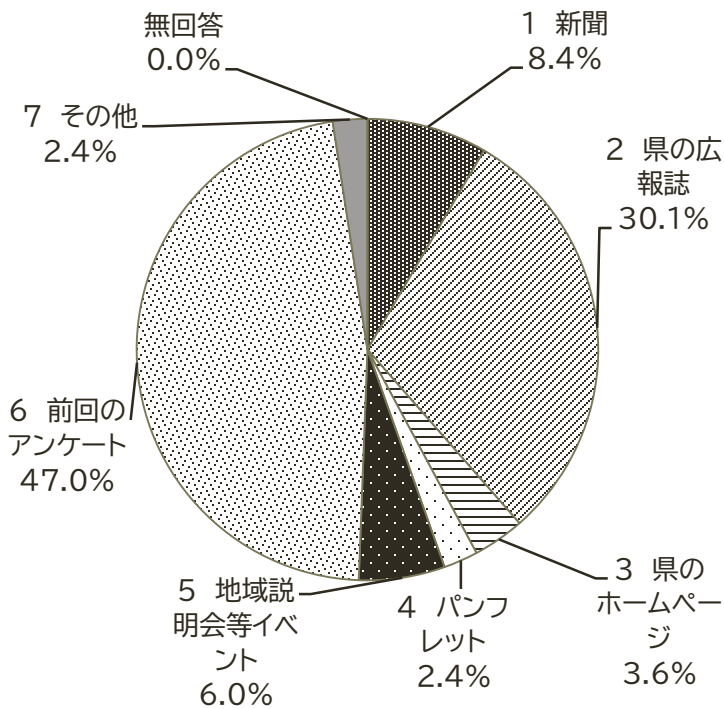
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している方（「何となく理解している」も含む。）は50.3%となり、令和2年度と比較し、21.3%増加した。

問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	7	8.4%	5	9.8%
2 県の広報誌	25	30.1%	23	45.1%
3 県のホームページ	3	3.6%	6	11.8%
4 パンフレット	2	2.4%	3	5.9%
5 地域説明会等イベント	5	6.0%	1	2.0%
6 前回のアンケート	39	47.0%	12	23.5%
7 その他	2	2.4%	1	2.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	83	100.0%	51	100.0%



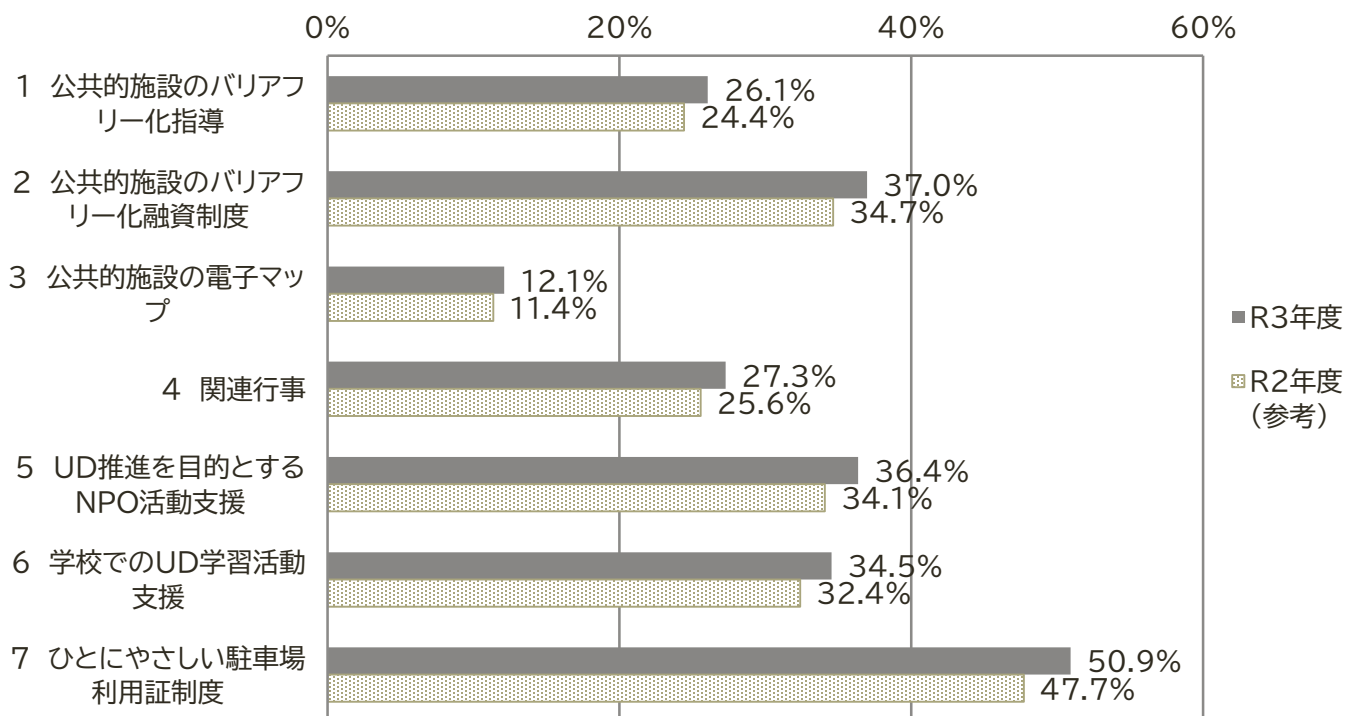
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、県の広報誌と回答した方の割合が多く、今後も普及啓発を継続する必要がある。

問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたりしたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	43	26.1%	43	24.4%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	61	37.0%	61	34.7%
3 公共的施設の電子マップ	20	12.1%	20	11.4%
4 関連行事の開催	45	27.3%	45	25.6%
5 ユニバーサルデザイン推進を目的とするNPO活動支援	60	36.4%	60	34.1%
6 学校でのユニバーサルデザイン学習活動支援	57	34.5%	57	32.4%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度	84	50.9%	84	47.7%
(回答者実数計)	165	-	176	-



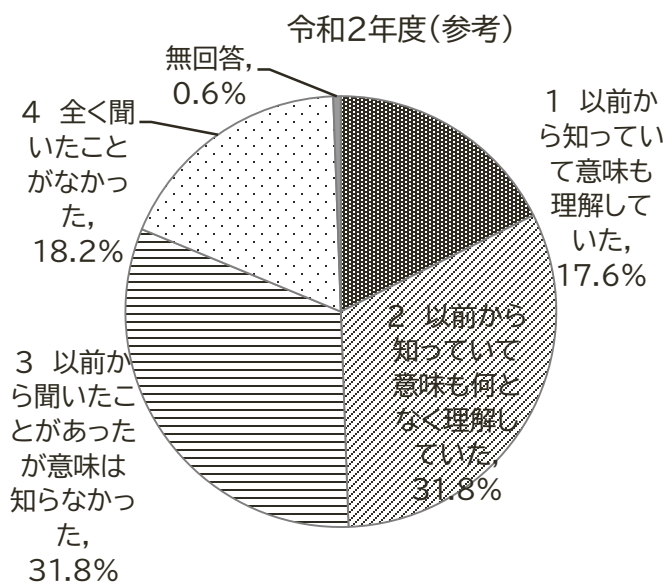
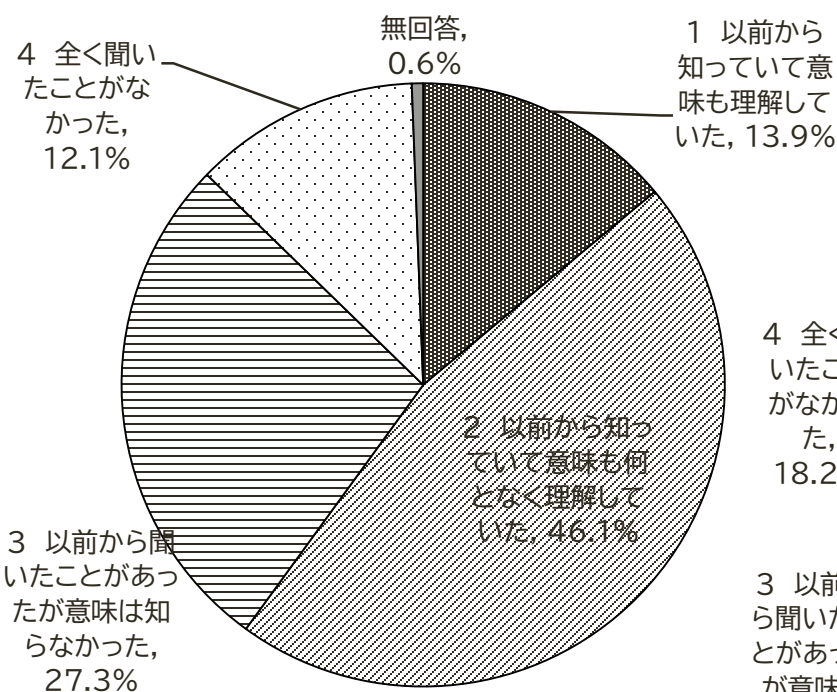
【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が50.9%と最も高く、次いで、「公共的施設のバリアフリー化融資制度」が37.0%となっている。

問4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解していた	23	13.9%	31	17.6%
2 以前から知っていて意味も何となく理解していた	76	46.1%	56	31.8%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らなかった	45	27.3%	56	31.8%
4 全く聞いたことがなかった	20	12.1%	32	18.2%
無回答	1	0.6%	1	0.6%
合計	165	100%	176	100%



【調査結果】

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていて意味も理解している方（「何となく理解」も含む。）の割合は60%となり、令和2年度と比較して、10.6%増加した。

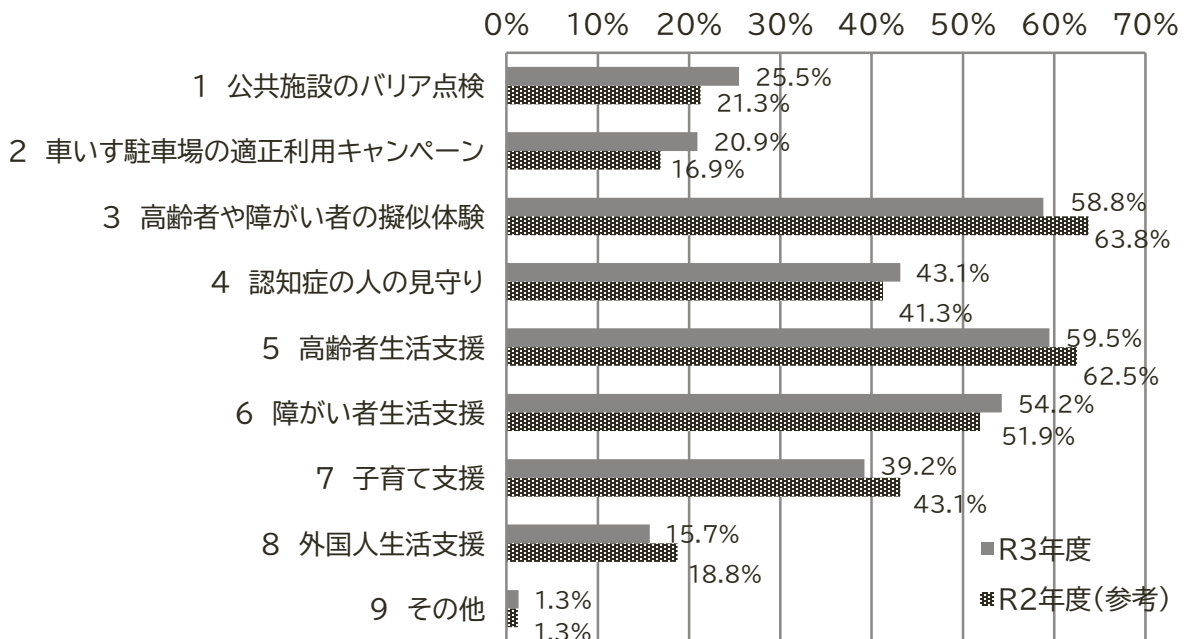
問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	39	25.5%	34	21.3%
2 車椅子駐車場の適正利用キャンペーン	32	20.9%	27	16.9%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	90	58.8%	102	63.8%
4 認知症の人の見守り	66	43.1%	66	41.3%
5 高齢者生活支援	91	59.5%	100	62.5%
6 障がい者生活支援	83	54.2%	83	51.9%
7 子育て支援	60	39.2%	69	43.1%
8 外国人生活支援	24	15.7%	30	18.8%
9 その他	2	1.3%	2	1.3%
(回答者実数計)	153		160	

<9その他の内容>

- 婦人会やボランティア団体で実施している活動に参加している。
- 市の保健センターを手伝っていたとき、介護予防、健康相談等で家庭訪問をしていた。



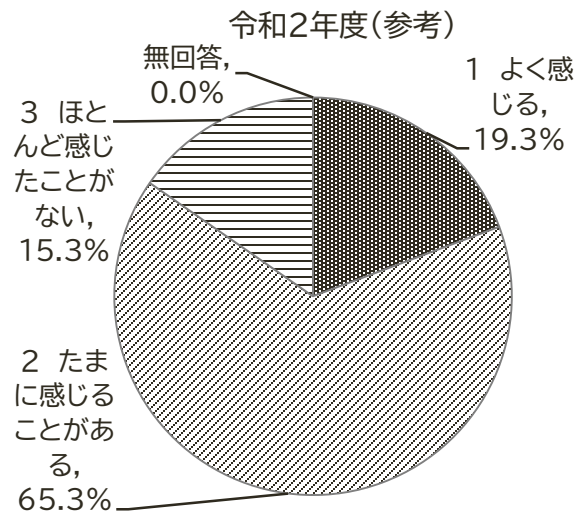
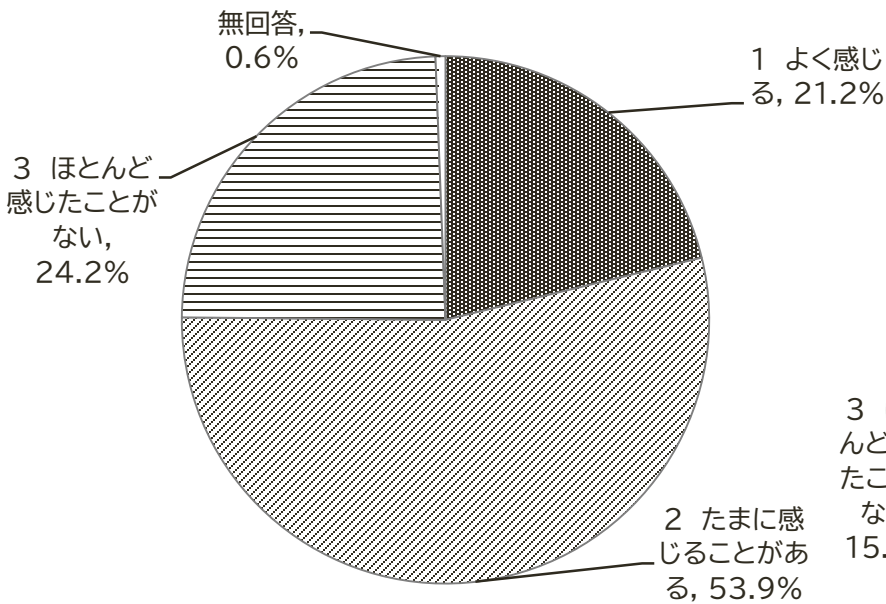
【調査結果】

見たり聞いたり、参加したことがある割合が多いのは、「高齢者生活支援」、「高齢者や障がい者の疑似体験」、「障がい者生活支援」となっている。

問6

まちの中の「ハード」（公共的施設、道路など）を利用又は移動するときにはバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる	35	21.2%	34	19.3%
2 たまに感じることもある	89	53.9%	115	65.3%
3 ほとんど感じたことがない	40	24.2%	27	15.3%
無回答	1	0.6%	0	0.0%
合計	165	100.0%	176	100.0%



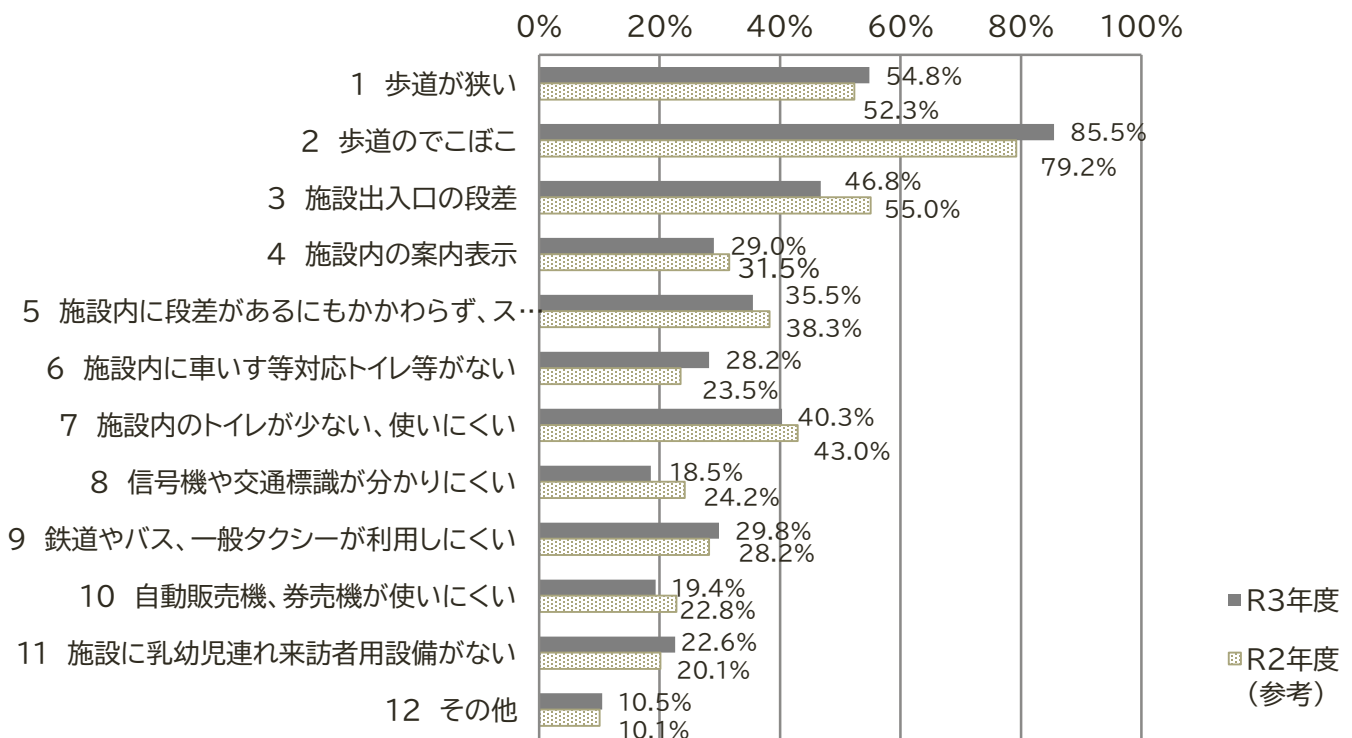
【調査結果】

「よく感じる」「たまに感じることもある」と回答した方の割合は、75.1%となり、令和2年度と比較して9.5%減少した。

問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	68	54.8%	78	52.3%
2 歩道のでこぼこ	106	85.5%	118	79.2%
3 施設出入口の段差	58	46.8%	82	55.0%
4 施設内の案内表示	36	29.0%	47	31.5%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、スロープ等がない	44	35.5%	57	38.3%
6 施設内に車椅子等対応トイレ等がない	35	28.2%	35	23.5%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	50	40.3%	64	43.0%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	23	18.5%	36	24.2%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにくい	37	29.8%	42	28.2%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	24	19.4%	34	22.8%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	28	22.6%	30	20.1%
12 その他	13	10.5%	15	10.1%
(回答者実数計)	124	-	149	-



【調査結果】

歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じると回答した方が多く、歩道のでこぼこについては、85.5%の方がバリアと感じている。

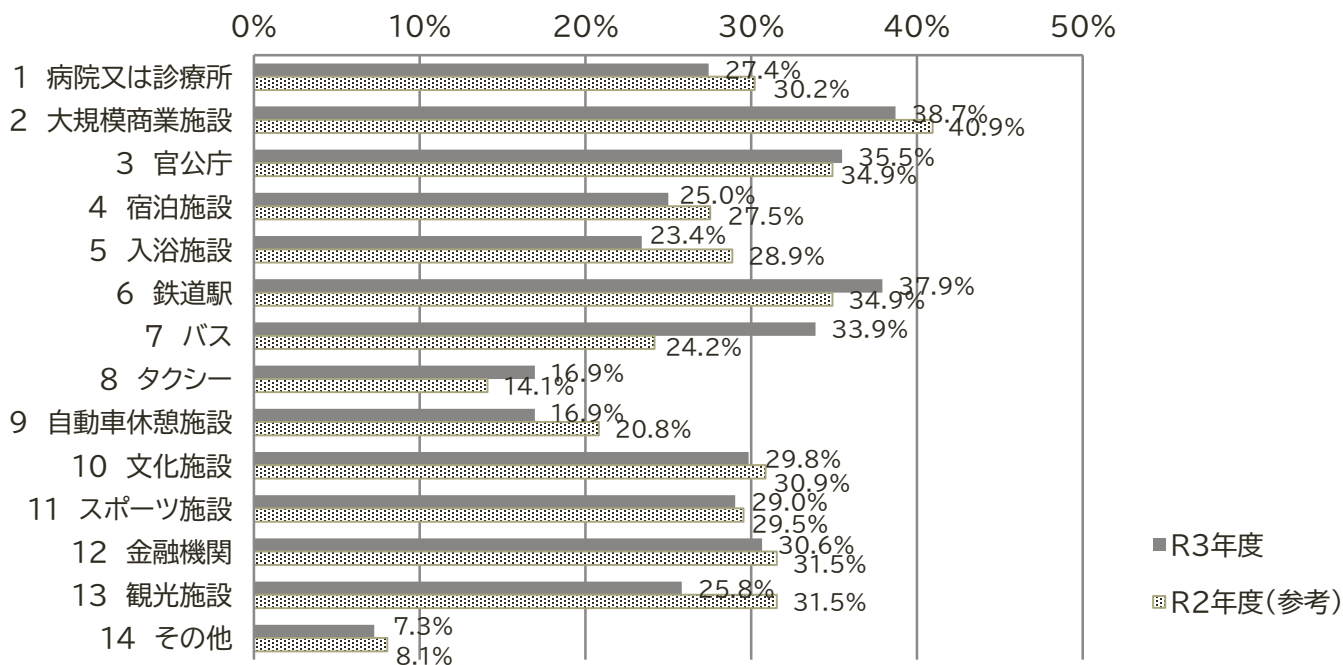
<12その他の内容>

- 視力障害者なので移動する時に感じる。
- 鉄道を利用するときホームへの階段がきつい。
- 歩道点字シートのはがれ。
- 狭い歩道の車道への傾斜が急。
- 施設入口のスロープが急な所がある。
- トイレに関しては洋式であってもドア開閉にすごい不便なところがある。照明節約はわかるが視力弱者は暗くて安全性にかける。
- 車イスを押して歩道を進むときに斜めになっているので（急な角度の所あり）うまく進めず手間取る。
- 無人駅や小さな駅にはエレベーターがない。
- 市役所で人で混んでいると通路がない。
- 大規模商業施設などセルフレジがふえて来たこと。
- 駅のトイレが身障者用のないところがあって不便。

問8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	34	27.4%	45	30.2%
2 大規模商業施設	48	38.7%	61	40.9%
3 官公庁	44	35.5%	52	34.9%
4 宿泊施設	31	25.0%	41	27.5%
5 入浴施設	29	23.4%	43	28.9%
6 鉄道駅	47	37.9%	52	34.9%
7 バス	42	33.9%	36	24.2%
8 タクシー	21	16.9%	21	14.1%
9 自動車休憩施設	21	16.9%	31	20.8%
10 文化施設	37	29.8%	46	30.9%
11 スポーツ施設	36	29.0%	44	29.5%
12 金融機関	38	30.6%	47	31.5%
13 観光施設	32	25.8%	47	31.5%
14 その他	9	7.3%	12	8.1%
(回答者実数計)	124	-	149	-



【調査結果】

大規模商業施設、鉄道駅、官公庁の順に、バリアを感じると回答した方の割合が多い。

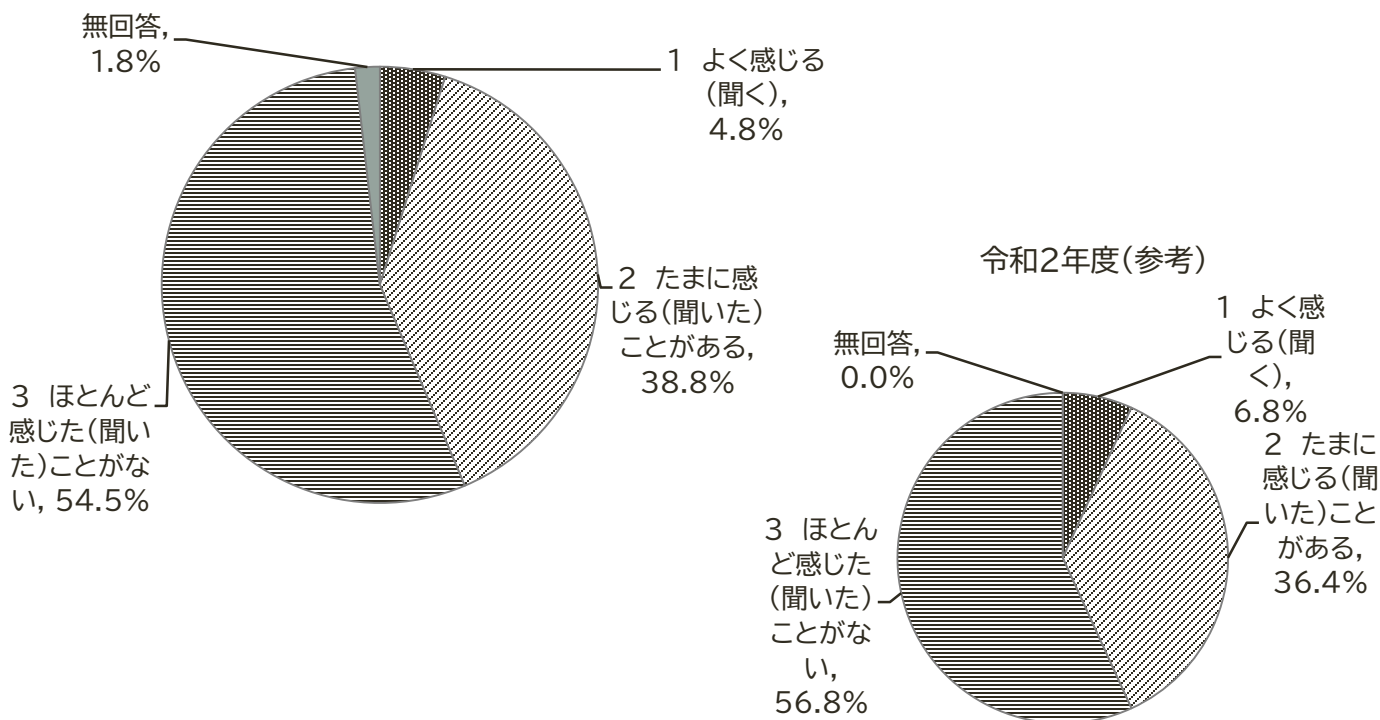
<14その他の内容>

- ドラッグストア
- 道の駅やスーパー
- 教育施設（小中学校等）
- 商店街
- 道路（歩道）

問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車椅子用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車椅子の適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる(聞く)	8	4.8%	12	6.8%
2 たまに感じる(聞いた)ことがある	64	38.8%	64	36.4%
3 ほとんど感じた(聞いた)ことがない	90	54.5%	100	56.8%
無回答	3	1.8%	0	0.0%
合計	165	100.0%	176	100%



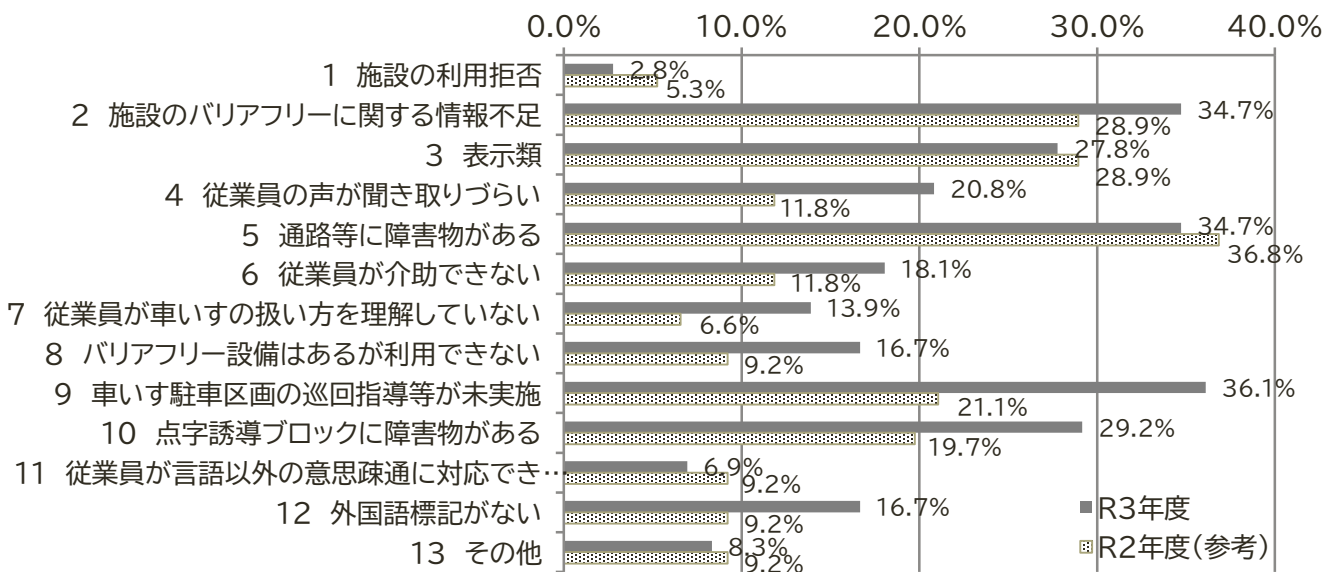
【調査結果】

「よく感じる(聞く)」、「たまに感じる(聞いた)ことがある」と回答した方の割合が、43.6%となり、令和2年度と比較して、0.4%増加した。

問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	2	2.8%	4	5.3%
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	25	34.7%	22	28.9%
3 表示類が見つらい	20	27.8%	22	28.9%
4 従業員の声が聞き取りづらい	15	20.8%	9	11.8%
5 通路等に障害物がある	25	34.7%	28	36.8%
6 従業員が介助できない	13	18.1%	9	11.8%
7 従業員が車椅子の扱い方を理解していない	10	13.9%	5	6.6%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	12	16.7%	7	9.2%
9 車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施	26	36.1%	16	21.1%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	21	29.2%	15	19.7%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	5	6.9%	7	9.2%
12 外国語標記がない	12	16.7%	7	9.2%
13 その他	6	8.3%	7	9.2%
(回答者実数計)	72	-	76	-



【調査結果】

「車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施」、「施設のバリアフリーに関する情報不足」、「通路等に障害物がある」と回答した方の割合が多い。

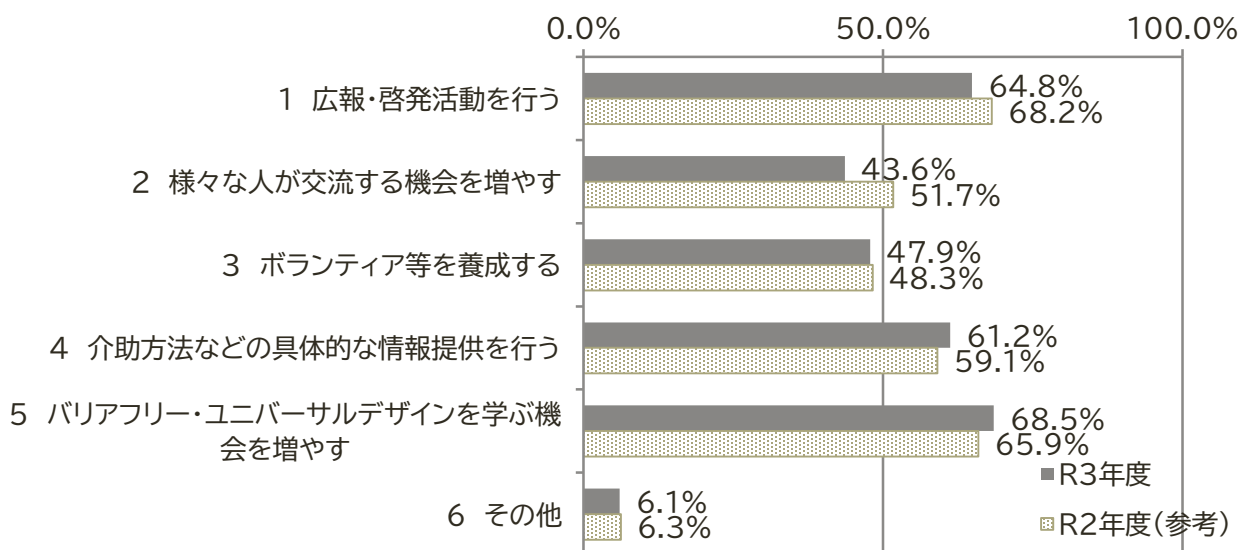
<13その他の内容>

- 車いすの空気が足りていない時がある。
- ホテルの売店で車イスの家族が欲しい物があるのに通路が狭くて通れずに店員は見ているだけで諦めた経験がある。
- 障害者トイレに貼り紙があり、汚したら警察に通報しますと書かれていた。
- 近所のドラッグストアがオープンの時、入口に近い車イス専用駐車場にテントをはり、カート置場に使っていた。

問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることができるよう、人を思いやることのできる心の醸成が大切であると考えられますが、心の醸成を進めるために、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	107	64.8%	120	68.2%
2 様々な人が交流する機会を増やす	72	43.6%	91	51.7%
3 手助けするボランティア等を養成する	79	47.9%	85	48.3%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	101	61.2%	104	59.1%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	113	68.5%	116	65.9%
6 その他	10	6.1%	11	6.3%
無回答	1	0.6%	1	0.5%
合計	165	-	176	-



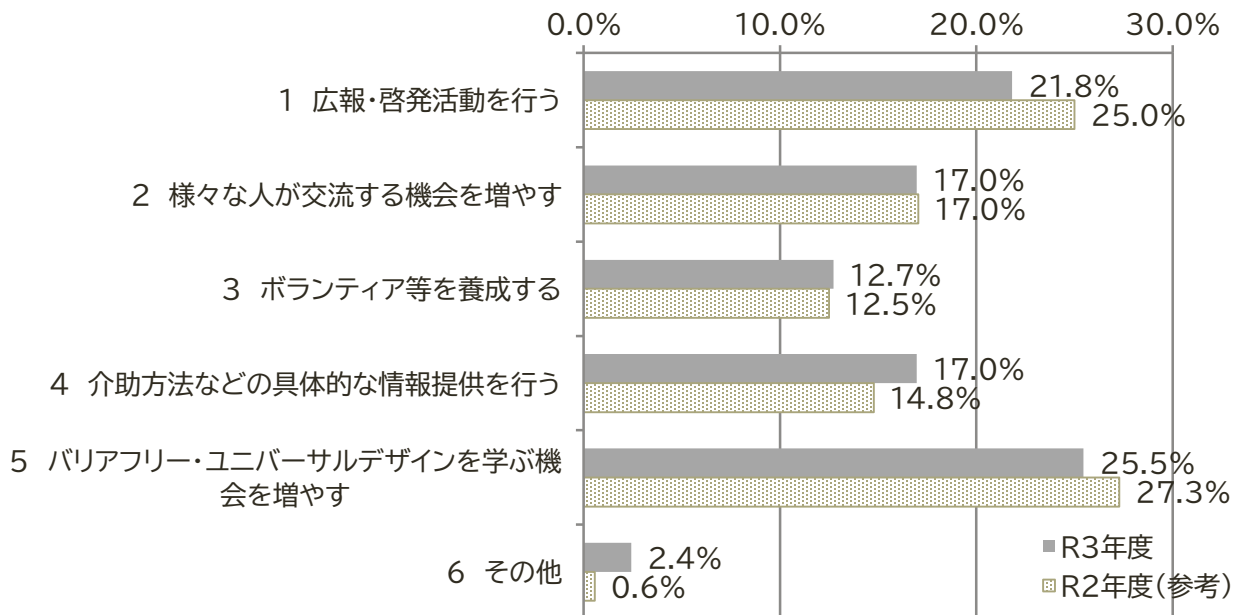
【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」、「広報・啓発活動を行う」、「介助方法などの具体的な情報提供を行う」の順に、回答した方の割合が多い。

問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	36	21.8%	44	25.0%
2 様々な人が交流する機会を増やす	28	17.0%	30	17.0%
3 手助けするボランティア等を養成する	21	12.7%	22	12.5%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	28	17.0%	26	14.8%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	42	25.5%	48	27.3%
6 その他	4	2.4%	1	0.6%
無回答	6	3.6%	5	2.8%
合計	165	100.0%	176	100.0%



【調査結果】

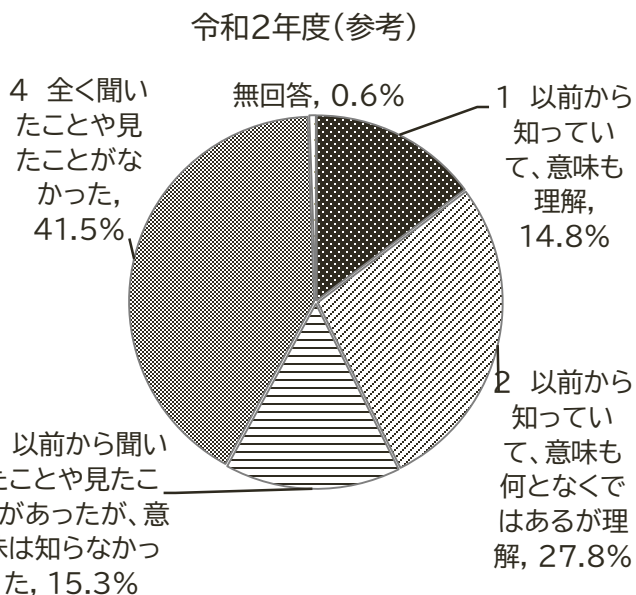
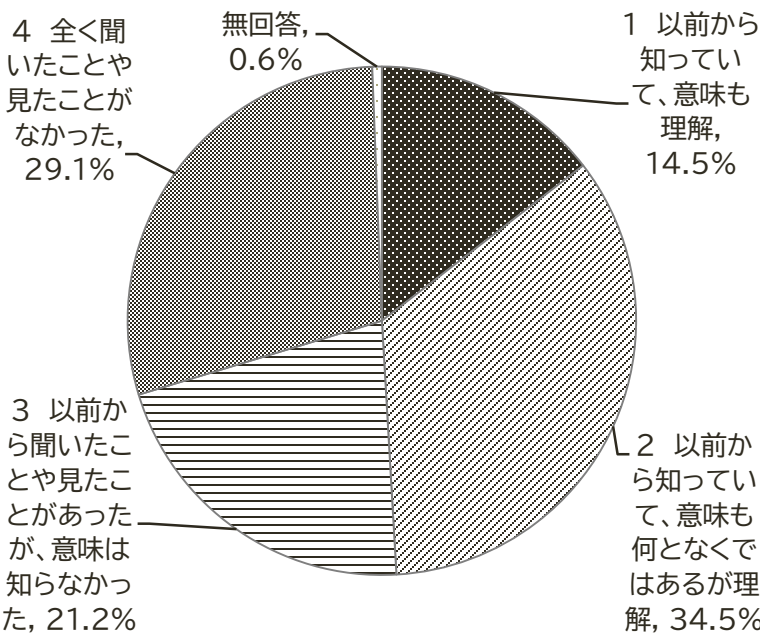
「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」が最も多く25.5%となり、次いで、「広報・啓発活動を行う」、「様々な人が交流する機会を増やす」、「介助方法などの具体的な情報提供を行う」の順に、回答した方の割合が多い。

問12

県では、外見からは援助や配慮を必要とすることが分からない方が身に付けることによって、援助や配慮を得られやすくなるよう、「ヘルプマーク」の配付・普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」について、本アンケートに御協力いただく前は、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて、マークの意味も理解していた	24	14.5%	26	14.8%
2 以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた	57	34.5%	49	27.8%
3 以前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかった	35	21.2%	27	15.3%
4 全く聞いたことや見たことがなかった	48	29.1%	73	41.5%
無回答	1	0.6%	1	0.6%
合計	165	100	176	100



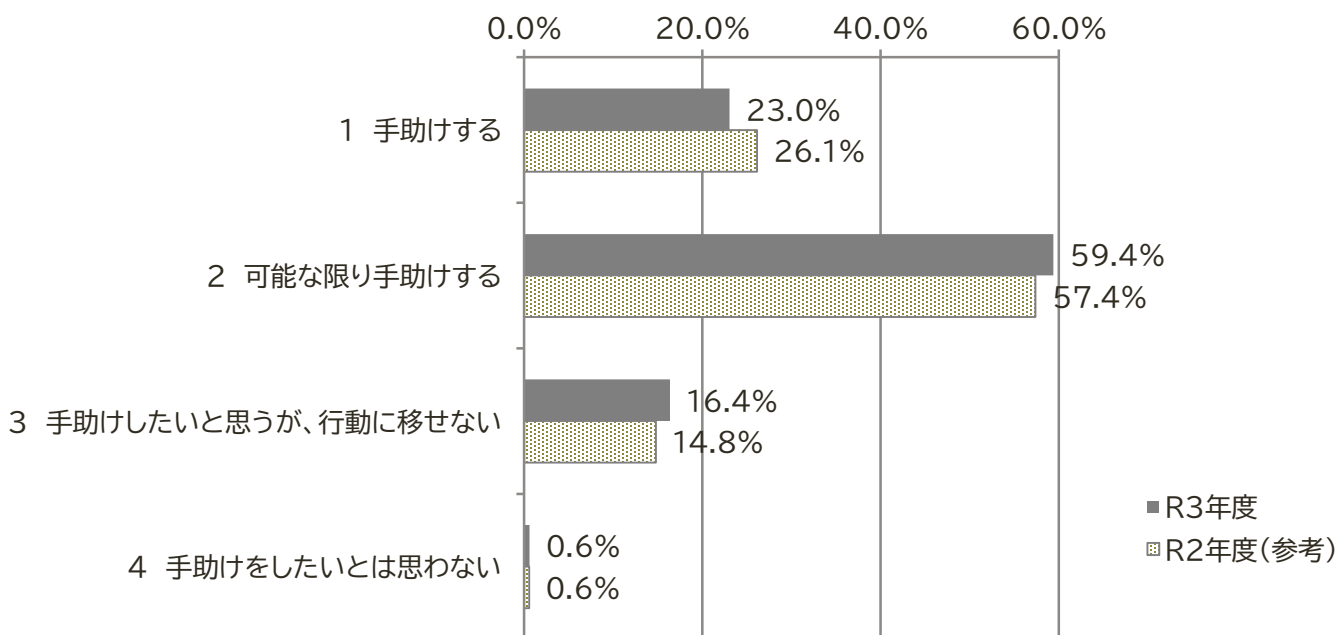
【調査結果】

ヘルプマークの意味を「理解していた」、「何となくではあるが理解していた」と回答をした方の割合は、5割程度となった一方で、「全く聞いたことや見たことがなかった」と回答した方の割合は3割程度となった。

問13

あなたは、外出の際、車椅子の方が段差で進めなくなっていたり、視覚障がいのある方が迷っていたり、外国人の方が駅や道で迷っていたりした場合など、困っている様子を見かけた場合、声をかけて手助けをしますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 手助けする	38	23.0%	46	26.1%
2 可能な限り手助けする	98	59.4%	101	57.4%
3 手助けしたいと思うが、行動に移せない(かもしれない)	27	16.4%	26	14.8%
4 手助けしたいとは思わない	1	0.6%	1	0.6%
無回答	1	0.6%	2	1.1%
合計	165	100.0%	176	100.0%



【調査結果】

「手助けをする」、「可能な限り手助けをする」と回答した割合は、82.4%となり、令和2年度と比較して1.1%減少した。

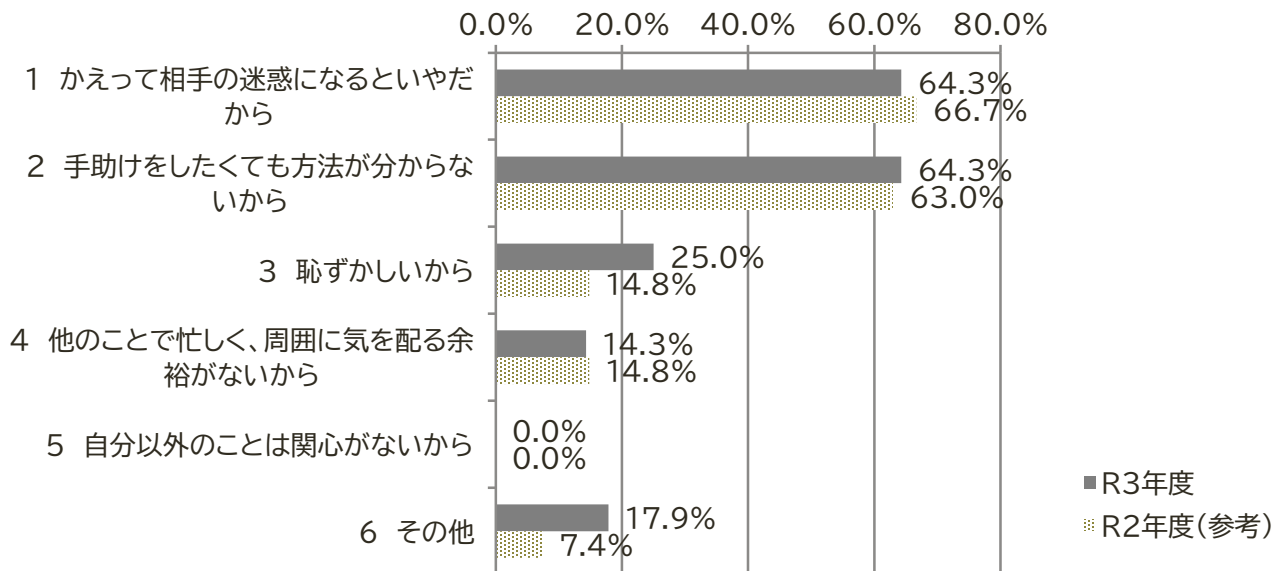
問14

問13で③又は④を選択された方にお聞きします。手助けをしない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 かえって相手の迷惑になるといやだから	18	64.3%	18	66.7%
2 手助けをしたくても方法が分からないから	18	64.3%	17	63.0%
3 恥ずかしいから	47	25.0%	4	14.8%
4 他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	4	14.3%	4	14.8%
5 自分以外のことは関心がないから	0	0.0%	0	0.0%
6 その他	5	17.9%	2	7.4%
(回答者実数計)	28	-	27	-

<6 その他の内容>

- 本当に困っているのか判断がつかない
- 外国人の場合外国語が話せないと思うから



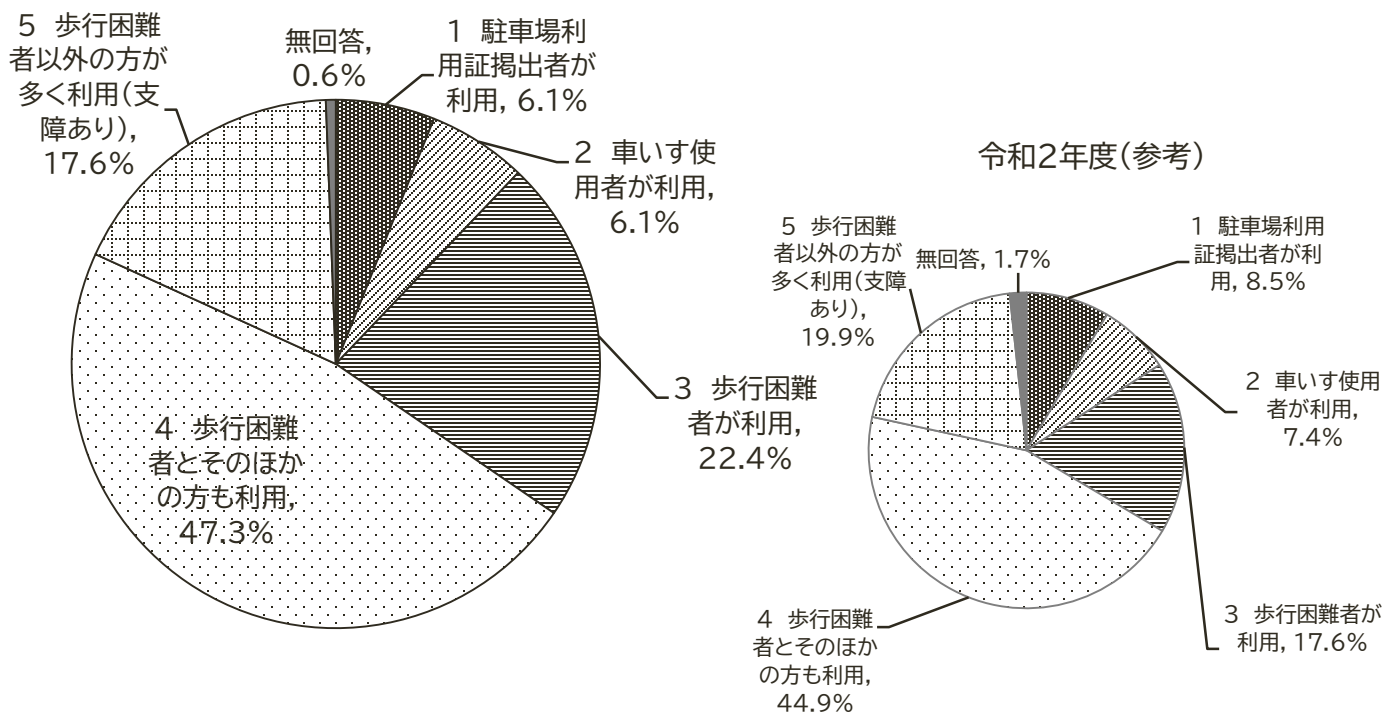
【調査結果】

「かえって相手の迷惑になるといやだから」、「手助けをしたくても方法が分からないから」と回答した方の割合が64.3%と最も多い。次いで、「恥ずかしいから」と回答した方の割合が25.0%となった。

問15

公共的施設には、車椅子を使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車椅子駐車区画」が設けられています。最近の車椅子駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	10	6.1%	15	8.5%
2 車椅子使用者のみが利用	10	6.1%	13	7.4%
3 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者のみが利用	37	22.4%	31	17.6%
4 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者とそのほかの方も利用	78	47.3%	79	44.9%
5 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難者以外の方が多く利用(支障あり)	29	17.6%	35	19.9%
無回答	1	0.6%	3	1.7%
合計	165	100.0%	176	100.0%



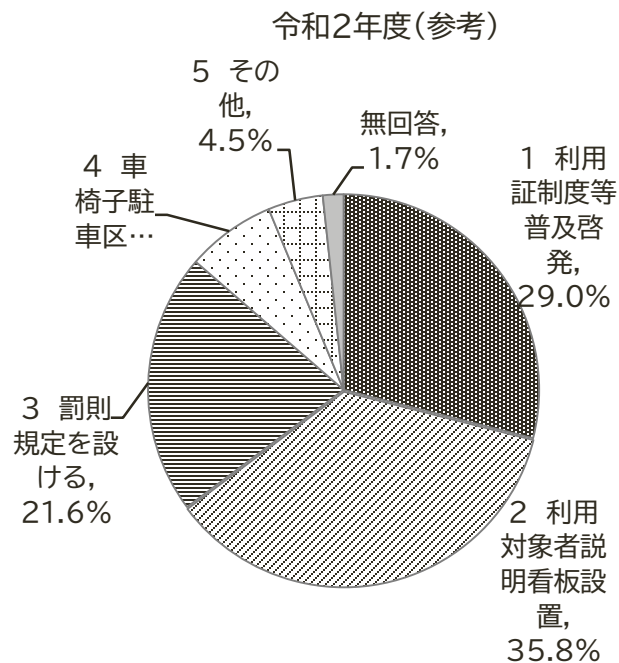
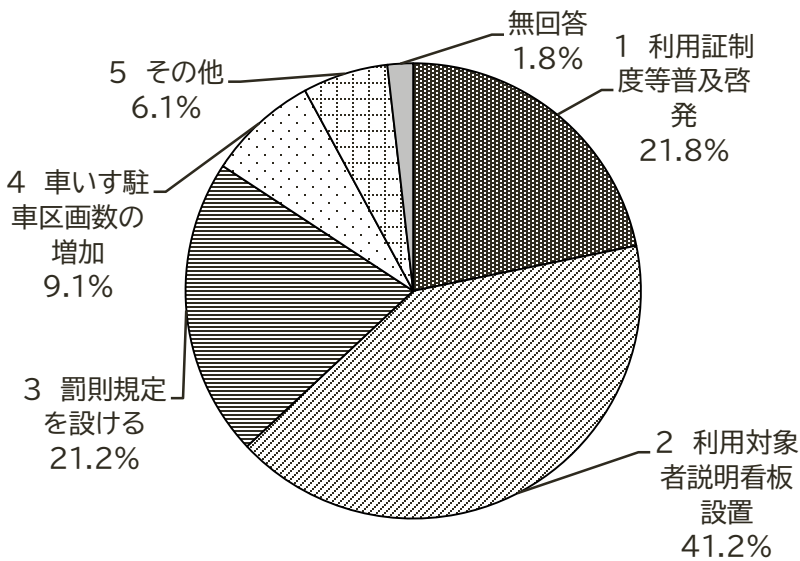
【調査結果】

「歩行困難者以外の方が多く利用(支障あり)」と回答した割合は、2.3%減少したものの、「歩行困難者とそのほかの方も利用」と回答した割合と合わせて、6割以上の方が、歩行困難者以外の方の利用があるとしている。

問16

車椅子駐車区画を車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	36	21.8%	51	29.0%
2 利用対象者説明の看板設置	68	41.2%	63	35.8%
3 罰則規定を設ける	35	21.2%	38	21.6%
4 車椅子駐車区画数の増加	13	7.9%	13	7.4%
5 その他	10	6.1%	8	4.5%
無回答	3	1.8%	3	1.7%
合計	165	100.0%	176	100.0%



【調査結果】

令和2年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車椅子駐車区画利用対象者の説明看板の設置を求める声が多い。

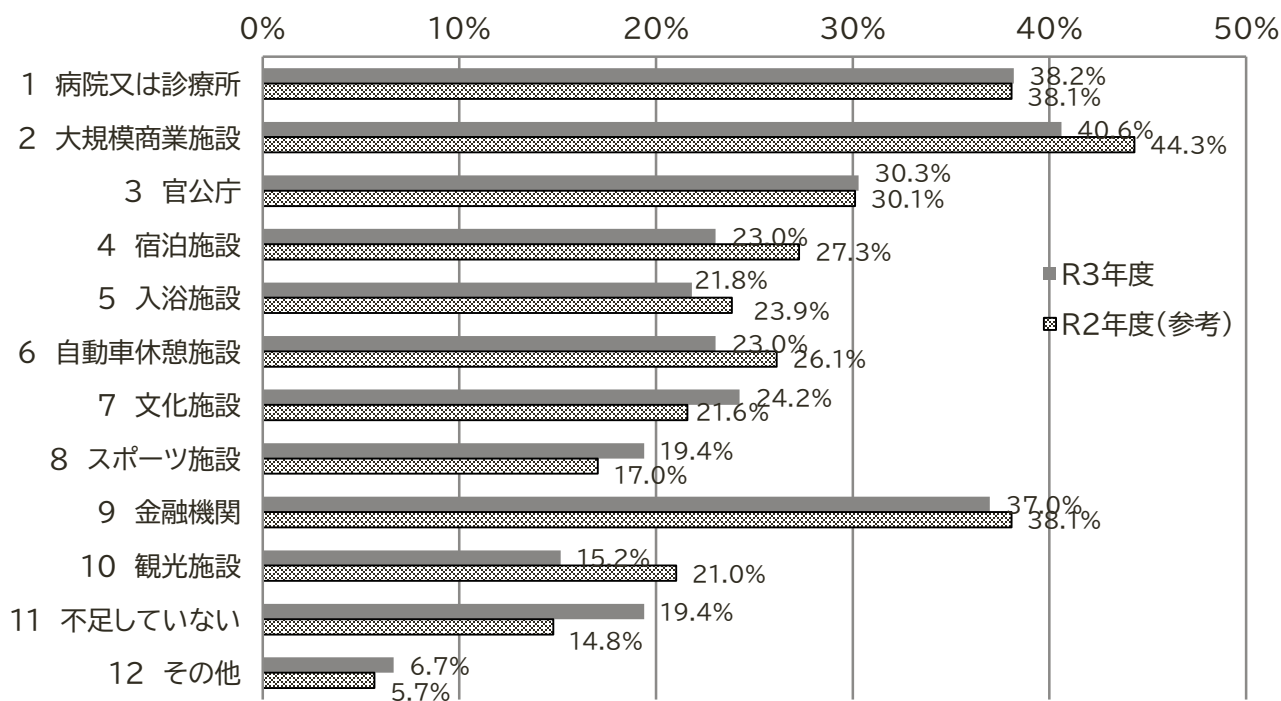
< 5 その他の内容 >

- 駐車一台あたりの区画の幅を広くすることで、困難な方も無理なく余裕をもって補助できると思う。
- 道徳的な授業の強化が良いかと思います。
- 高齢運転者が駐車する際にも助かるので看板の内容を検討する。
- 車と駐車スペースにセンサーを取り付け、センサーに反応しない車が止められたときにアナウンスや警告音が鳴るようにする。
- 関係者が巡回して指導・車に注意のステッカーを貼る。
- 理解できない人が一定量いるので諦め、量を増やす。
- 車椅子にサインがでたり光ったりする。
- 車椅子駐車区画の路面と区画正面に車椅子区画であることを大書する。
- 専用のメーター（装置）等を設置する。
- 利用者に応じて駐車場の数を増やす。
- 駐車一台あたりの区画の幅を広くすることで、困難な方も無理なく余裕をもって補助できると思う。

問17

次の施設のうち、車椅子駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	63	38.2%	67	38.1%
2 大規模商業施設	67	40.6%	78	44.3%
3 官公庁	50	30.3%	53	30.1%
4 宿泊施設	38	23.0%	48	27.3%
5 入浴施設	36	21.8%	42	23.9%
6 自動車休憩施設	38	23.0%	46	26.1%
7 文化施設	40	24.2%	38	21.6%
8 スポーツ施設	32	19.4%	30	17.0%
9 金融機関	61	37.0%	67	38.1%
10 観光施設	25	15.2%	37	21.0%
11 不足していない	32	19.4%	26	14.8%
12 その他	11	6.7%	10	5.7%
(回答者実数計)	165	-	176	-



【調査結果】

大規模商業施設と回答した割合が最も多く、4割を超えている。次いで、病院又は診療所、金融機関が多くなった。

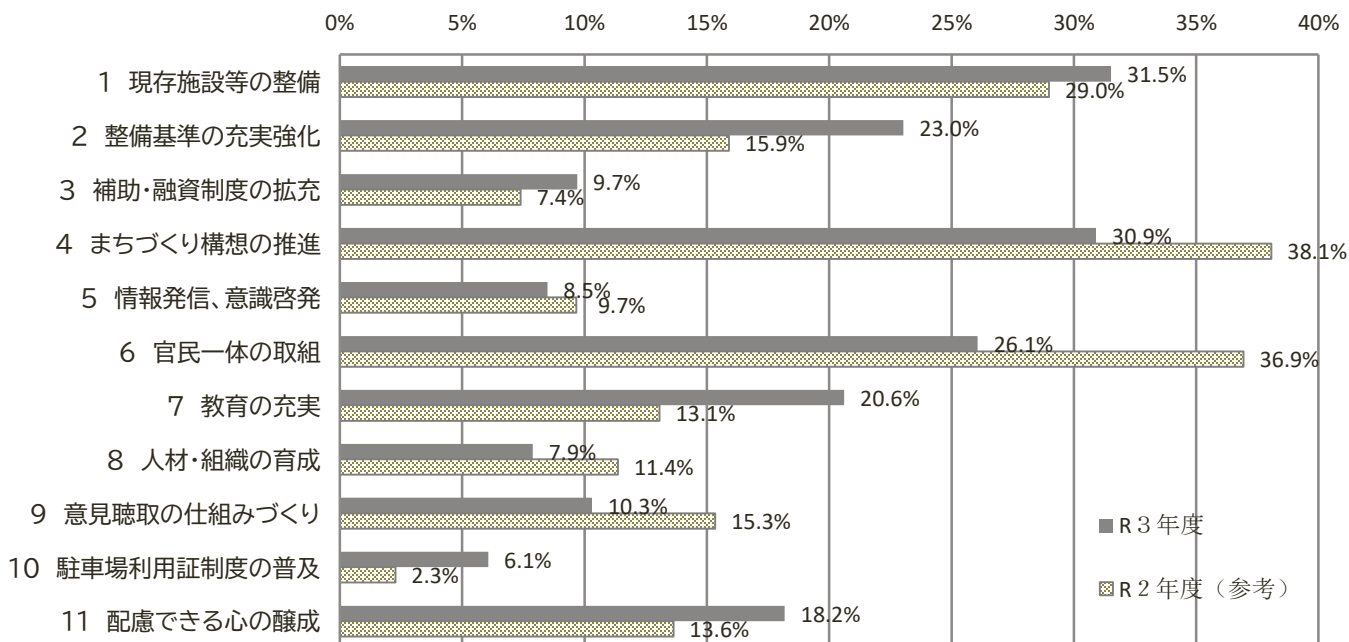
<12その他の内容>

- どの施設においても「昔からある近所の…」的なところに不足不備が多い傾向があると思う
- 古い建物
- 高齢者用マークをつけている車の駐車場の配慮もして欲しい。花巻空港はある。
- 比較的新しい病院やスーパーにはスペースはあるが、店内や目的まで離れている所がある。

問18

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの）

	令和3年度		令和2年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	52	31.5%	51	29.0%
2 整備基準の充実強化	38	23.0%	28	15.9%
3 補助・融資制度の拡充	16	9.7%	13	7.4%
4 まちづくり構想の推進	51	30.9%	67	38.1%
5 情報発信、意識啓発	14	8.5%	17	9.7%
6 官民一体の取組	43	26.1%	65	36.9%
7 教育の充実	34	20.6%	23	13.1%
8 人材・組織の育成	13	7.9%	20	11.4%
9 意見聴取の仕組みづくり	17	10.3%	27	15.3%
10 ひとにやさしい駐車場利用証制度の普及	10	6.1%	4	2.3%
11 マークの普及をはじめとする配慮できる心の醸成	30	18.2%	24	13.6%
12 無回答	4	2.4%	1	0.6%
(回答者実数計)	165-		176-	



【調査結果】

「現存施設等の整備」、「まちづくりの構想の推進」、が3割を超えている。令和2年度と比較して、「教育の充実」が7.5%増加した一方、「官民一体の取組」が10.8%、「まちづくり構想の推進」が7.2%減少している。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●コロナ禍であり、ほとんど外出していないことを改めて感じた。病院とスーパー以外、他の文化、体育施設には一切足を運んでいない。身の回りに障がい者の方がいないこともあり考えさせられるアンケートだった。自分が更に高齢者になり、これから社会の不便を感じていくであろうから、その際に今よりも住みやすい社会であることを願う。

●まちづくり（ハード）には多大な財源が必要であり、「ひとにやさしい」と感じるのは人それぞれだと思うため、全てのひとが満足するまちづくりは、正直、出来ないものと思います。また、十分なハード面を整備しても、整備された以上の整備を求めるのが『人』だと思います。「ひとにやさしい」人が少なければ、何も改善されないものと思います。人を変えることは簡単ではありませんが、「ひとにやさしい」＝「思いやりの心」を養う人材育成が現実的であり最優先事項だと思います。人材を育成する簡単な手法は、学校において子ども達への教育だと思いますが、現状、子ども達へ指導する教員。教員を指導すべき管理者（校長・副校長など）の資質に疑問を抱くときが多々あります。また、会社でも同様、管理者の資質に疑問を抱くことが多いです。管理者＝権力があると勘違いしている人（管理者）が、何故か私の周りには多くおります。子どもや部下に手本を見せる立場の管理者の教育が最優先なのかもしれません。いずれ、多くの大人が「ひとにやさしい」考えや行動の意識改革が出来れば、必然的に、子ども達へ引き継がれるものと思います。「ひとにやさしいまちづくり」の最優先で最重要なことは、多くの大人が思いやりの心を持ち、ひとにやさしく接することができるような教育をすべきだと思います。

●家族に車椅子生活者ができ、診察のため開業医（含歯科）に通う機会が多く入口の段差、トイレ等で不便を感じることが多い。

●市民の皆さんの、意見をアンケートとして、情報提供をしい頂く事が出来る様な、アンケートボックスを設置しては、どうでしょうか。

●すでに行政が実施しているので情報を理解して、進んで協力する様な啓発活動を各地域で行えば良いと思う。

●今回、アンケート回答するまで、障がいを抱えた方や高齢者、妊婦さんの立場になってバリアについて考えたことがなかったため、今回のアンケートを通して気づくことができた。「人を思いやる心の醸成」ととても大切だと思います。ですが、普及啓発では関心のない人には伝わりづらいと考えられるので、学校での教育がもっと充実するとよいのではないかと考えます。

●実家の父は80歳を過ぎておりますが、車の運転免許を手離す事ができません。都会の様に病院やお店が近くにありませんし、公共の交通機関もないので、自家用車は必須です。買い物や行事、コミュニティへの参加などはちょっとした移動が自分で車を運転しなくてもできたら、その様な「まち」であって欲しいと思います。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●いろいろな性格の人がおられるでしょうが困っている人を見かけたら手助けをする心がけの（教育？自覚？）があればと思います。

●県及び市町村の広報で周知が必要。

●「ひとにやさしいまちづくり」を進める上で必要なことは、貧困家庭、シングルマザー、シングルファザー含め、誰もが安心して子育てが出来、優しい心を持った人間に育てられることだと思う。

●まちには健常者だけではなく、高齢者や障害者など、いろいろな人が共存しています。自分だけ良ければいいというのではなく、明日は我が身と思って、自ら考えて行動することも必要だと思います。

駐車場の優先スペースなども利用対象外の方が平気で利用している様子を時々目にしては残念に思います。

私自身は視覚障害者向けに点字訳するボランティアをしています。

これからもできる範囲で優しいまちづくりに協力していきたいと思います。

●一定量いる、理解できない人を理解させるのが理想ですが、困難だと思っています。駐車場の管理者に絶対的権力を与える等の対策が必要では、と考えます。

●既存の公共施設で、利用者からはエレベーター設置の要望があるが、施設の築年数もあり、新たに何かを設置したり直したりする事への費用対効果を問われ、何年もそのままの状態となっている所もある。

一からバリアフリーが備わった建物を作るのは簡単だが、今ある施設をどう人に優しい建物として活用していくかが問われるように感じる。

中心部では利用者も多い分、バリアフリー化などで「ひとにやさしいまちづくり」が目に見えていくかと思うが、田舎では廃校舎や管理の行き届いていない建物が増え、既存の公共施設も都会から見れば利用者が少なく（利用者は殆ど高齢者だが）、「費用対効果」という言葉が道を塞ぐ。

そういった地域にも手を差し伸べてもらえるような取り組みに期待します。

●これからも、地域の人々の声に耳を傾けて、お金を出して整備し、開発活動をしていってほしいです。

●公共的施設や大型商業施設の駐車場の幅がせまく、ベビーカーを出し入れする時、となりの車にぶつかりそうになる時があるのももう少し、駐車場を広くしてほしい。

●歩道のない通学路で死亡事件が発生したが、県内でも歩道がない通学路を洗い出し、改善することでひとにやさしいまちづくりに寄与すると思う。つながると思う。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●私自身生活介護サポーターや認知症の方のサポーターの学習をしましたが、いざその方々を目の前にするととまどうことがあります。今、災害等が多くなっています。地域で対応出来る組織づくり人材づくりが必要です。叔父の視力障害のための介護をしています。叔父も1人の人間と思うと色々考えさせられています。

●昔とくらべれば理解が深まっていると思う。

●私は美容室を経営していますが、お客様が「ヘルプマーク」を持っていて、初めて知りました。各事業所等にポスター？チラシ？パンフレット（普及できるもの）を置いたり、事業所から皆様へ広げていくのもいいかと思えます。

●誰しもが一度は見たことがあると思いますが、障害者用の駐車場に駐車する健常者が特に多く、目立つため、交通違反になるよう働きかけを行ってほしい。

それくらいやらないとなくならないし、意識づけできないのではないかと思います。

●以前より車椅子駐車区画が増え良いと思います。ただ、標識や表示が消えてきているものも増えている感じがするので、もう少し管理できたらいいのではないのでしょうか。

●こんなアンケートもよいですね。考えるきっかけとなりました。

●ゾーンが分かりやすいデザインを作してほしい（空間）。マナーは教育と訓練がないと拡大しない（時間）。・何を優先するかは忙しい社会ではうまくいかない。空間に余裕、時間に余裕。そして自分の気持ちに余裕がないと優しくなれない。・実践したら感謝、それがあたりまえになると良いと思う。

●何ごととも同じですが、自分がその身にならないと、わからない。私も73才になり、母に言われていたことが体力が弱ってきて、はじめて理解が出来る。やさしいまちづくりも、一人一人がその身になれるかどうかで本当に「ひとにやさしいまちづくり」が実現可能となるのではないかと考えています。

●この施策そのものについてのことではないのですが、昔から、日本人は他の国や民族の人と比較して公德心に優れていると、海外の人からも賞賛されることが多々あったと思います。しかし。我々自身が暮らす町の足もとを見ると、公園や道ばたに、何とゴミが多いことか。それらが人の体や心を傷つけることもあるだろう。それらを放置していたら「ひとにやさしいまちづくり」なのだろうかと思う。

●スーパー等で車イス駐車区画に健常者が駐車しているのを見ると、とても残念に思います。

●ハード面の整備だけでなく、ソフト（人権意識の向上・マイノリティーの人々への配慮や支援）の活動を増やし、誰もが暮らしやすい環境を整えることが必要。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- いわてわんこ広報室てれび放送で少しずつ活用してみたらどうでしょう（このアンケートで課題となっていること、県民の皆さんに理解してほしいこと）
- 小学生からの教育が必要だと思います。
- 絶対的にハード面が不足している場合もあると思うが（経済的な事もあるし）ソフト面が大切だと考えられますが、猛スピードの高齢者、若者にのしかかる負担も多すぎます。93才の母が利用しているデイサービス（週3回）のありがたさ、20年後はどうなるのか暗くなります。
- 家族に障がい者や、車イス利用の親がいて介助していました。街の中は小さな段差やゆるやかな歩道の坂でも、とても押す方は大変です。車イススペースの駐車には若い元気な人が止めていたり、販売員のモラルの低さにがっかりしたこともあります。私が住む花巻は坂が多く近くまで車イスで家族を連れ出そうにもいつも諦めてしまうのが現状です。（車の運転はしないので）
- 様々な人に対して気遣い、心遣いを普通にできるようにするには、小学校や中学校で学ぶ機会があると良いと思う。大人になってからでは、なかなか難しい場合があると思う。
- ひとにやさしいまちづくり、継続は賛成。でも具体的に何をすればいいかわからない人が多い様に思う。ヘルプされる側、ヘルプする側ともにどうしたらいいのか啓発が大事。だれもが理解しやすいイラストでのノウハウ本を必要と思われるところに掲示してみることが大事。
- 私の身近で感じていることですが、舗道に段差があり車を押して歩いた杖をついて歩く人は、歩道を歩けないでいる
- 「ひとにやさしいまちづくり」について、学校教育の中で（幼保～小～中～高～大）長期は体系的に学ぶ（教育）ことが大切だと思う。心の教育につながるものが大であると思います。
- 重要なのは継続すること。故障があればすぐ修理すること。初めにお金を出しても、その後、出して改善していけるかが問題。お金を出し続けることができない事はやるべきではない。
- 生活していると意外と病院や銀行など生活にかかせない所でのバリアを感じることがあります。環境整備をしやすくするための補助や、それらがなぜ必要なのかという理解がないとなかなかすすまないのかなと思います。
- 障がい等のある方々の“生の声”を聞いてほしい。（令和2年度第3回のアンケート内容がほぼ同じなんですね…）

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●公共施設、公共交通機関、タクシー、など人も物もずいぶん親切になったと思う。ただ、コロナ禍で、近づいて話しかけていいのか、触れていいのかとためらってしまう。新しい接し方や援助の仕方を提案してほしい。

●「ひとにやさしいまちづくり」の活動が活発になってもらいたいと感じました。普段生活していて不便を感じる事はないのですが岩手県が車を利用する事が多い県に感じます。障害を持っている人や社会的弱者の人達が住みやすい街づくりをしてもらいたいです。

●問18で回答したように「多様な意見を把握・反映させていくための仕組みづくりを充実すること」が大切だと思います。

●車いすマークの駐車スペースに平気で、健常者と思われる人が停めているのにはいらだちを感じます。でももしかしたら、健常者ではなく、その方も必要として停めているのかもしれないので何も言えない。きちんと、マークを付けている人はわかりやすいですが、付けてない人の対応が困る。

●少子高齢化が進み、今後岩手全体の人口と、県の予算が減っていく現実が待っている状況です。

●明らかに見える障害の人には設備されているかもしれないが心の病など目に見えない障害の人の援助（引きこもりとか）不足しているような気もする。毎月の給料から多額の税金がとられているので、有効に使って欲しい。

●できる事業から取り組んでほしいと思います。

●交差点の歩道、階段等、傾斜のある歩道等の凍結路面の解消を図るべき

●だれもが安心してくらせる社会の実現を心より望みます。

●人によっては、道路の凹凸や雪道の除雪の有無により、活動範囲がかなり限られてしまう方もいらっしゃると思います。

これは、県内でも地域によってかなり差があるように感じます。

自治体の財政状況の差なのではないでしょうか？改善されることを願います。

●車いすユーザーです。道路の凹凸などを改善していただきたいです。

●学校や職場などで、知る機会・接する機会があったら良いと思う。企業とのタイアップなど、社会全体で取り組むことで、個人が日常で気を留める余裕がもてそう。対象者が孤立してしまう社会から脱することが出来ればいいな。

●妊婦や障がい者や高齢者が困っているのか、困っていないのかわからない。敢えて手助けすると、ありがた迷惑になる時もある。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●以前から、商業施設で、車椅子駐車区画に一般の車が駐車しているのを見かけ、不快に思っていました。そういう方に、やはり罰則などを設けた方が、守る様になり、車椅子や障害者の方々に安心して駐車できる様になるのではないのでしょうか。

●段差を、極力なくし、エレベーターをできるだけ多く、設置する事。

●公共施設は古いものも多くバリアフリーには程遠い状態なので改修などが必要な施設が多いと思う。予算が必要なので簡単ではないが例えば使いやすい工夫をしているのであればそこをアピールしていくのも意識づけにつながるかなと思っています。

●釜石市の話ですが…信号を増やす・点字ブロックを増やす・凸凹道を直す。

●【ヘルプマーク】の方に思いやりの行動をお願いしたい旨：記載になっていましたが、少し消極的に見えます。【オレンジ色のゴム製腕輪】を傾聴ボランティア講習会でいただきましたが、「腕輪をしている方は、困っている方が声をかけると積極的に支援する方」と聞きましたので、「オレンジ色腕輪運動」を展開し、多くのオレンジ部隊をつくり、活動することも一案と思います。

●前問の選択肢にもありましたが、一番重要なのは、個個人の意識を変えることが必要だとおもいます。

●一般道の横断歩道でも手をあげて渡ろうとしている人がいるにもかかわらず車を止めないで、目の前を通過していく運転手が多く見られ、運転マナーの低下、人を思いやる心のゆとりのなさを強く感じます。

●良い情報を提供することが大切だと思います。

●ヘルプマークやユニバーサルデザインについてほとんど知らなかった。社会人になってから学ぶことがないので、市や県で「資格」「講習会に参加したら終了証がもらえる」等の取り組みをしたら、ぜひ勉強したいと思う。

●スーパーに車イスがあるように、よく利用するドラッグストアにも最低車イス1台を設備して欲しい。設備している場所でも定期点検、手入れをおろそかにしないで欲しい。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●ハローワークを現在利用させていただいている。月に一度、認定日で来訪する際、コロナであまり大多数の人との接触を避けたいと思い、子どもを見てくれる人がいない為来訪できないと言ってみたが、断られてしまった。公共の施設に託児所などがあれば、子を持つ親も働き口を前向きに探すきっかけになるのではないかと思った。また、幼児になると自分で排泄をしたい思いもでてきているため、幼児用のトイレの設置又は、補助便座がついたトイレがあると助かる。

ベビーカーをバスに乗せるとスペースが狭くなり、ほかの利用者さんに申し訳ない気がする。ベビーカーを乗せてもいいスペースか、ベビーカーを一時的に収納できる場所があると助かる。

また、車椅子で買い物をしている方が膝の上にカゴを乗せ買い物をしている場面に遭遇したことがある。視線が低い為、高いところにあるものに手が届かず苦労されていた。スーパーや公共施設などにおいては、そのような方を補助する専門的な知識をお持ちの方がいれば、利用者も苦労する点が減ると考える。また、利用者のニーズに沿った環境整備もあってもいいのかもしれない。

障がい者、高齢者とのかかわりは、教員免許取得において体験活動が必須とされているはずだ。将来に向けて様々な人とのかかわりは大切であると思うとともに、各年代でかかわったときの思いは多様であると思う。免許取得のための体験活動にならないように、小さい頃からそのような体験をしていくことが、どの年代においても人にやさしいまちづくりを考えるきっかけになるのではないかと思った。学習指導要領におけるアクティブラーニング(主体的、対話的、深い学び)が重要視される中、このような体験をすることで、子どもたちが成長したときに多様な人の事を思い、自然とかかわろうとする気持ちが芽生えていくのではないかと思った。

●ヘルプマークはどのような条件があてはまり、どこにいった手続きをすれば、配布、してくれるのだろうか？私はおとし、精神障害があるため、いじめられ、差別され会社をやめてほしいと言われ、追放されました。しんだん書も提出したのに障がいがあるため、何でやめさせなければならないのか、親、おじさん、祖母の介護をしながら、仕事をみつけているが、うまく決まらない。生活できていません。助けて下さい。介護の毎日していたら再就職さえ、きまりません。こういう人たちを助けたりするのが、国、県、市の役所の人たちだと思います。一日でも早く働きたいです。助けて下さい。いつも県民のためにありがとう。

●「ヘルプマーク」の利用者が、どのような手伝いを望んでいるのかを知りたいです。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

●ヘルプマークを着けている方を見かけたことがまったくありません。とても良いこと（手助けしやすい）だと思いたしますが、注意して見ていないからなのでしょうか？利用者が少ないからなのでしょうか？高齢化社会になっていくので、利用促進で広まれば良いと思います。そのために広報活動も必要なのではないのでしょうか。

●コロナ禍で地域づくりがむずかしいか、地区で介護予防、住民主体の『元気出まっせ体操』20人程度集い月2～3回実施しており、水分補給の意味でコーヒータ임もあり30分～40分のサロン終了、住民1人1人が元気であること、中には軽い認知症の方もいますが、自助、共助、互助の気づかいで支えあってできるだけ楽しく続けたい。悩みを聞いたりして、「ひとにやさしいまちづくり」（地域）を精神面（心）で支えたい。

●私自身障がい者手帳を持っておりますが、「ひとにやさしいまちづくり」いろいろな場所で行って欲しいです。手帳はあまり使う機会がなくもっと活用できる方法を考えてもらいたいです。

●私のように病気で耳が片方聞こえず、それ故平行バランス保てず歩行に支障がある者、天候、体調によってはその支障度合が増す者にとって、「ひとにやさしいまちづくり」＝車椅子の方、障碍の有る方、妊婦さん等、見える方にとってのやさしいまちではなく、万人に対し思いやれる心を持って、行動、判断出来る人々を老若男女育てていく事が大事だと思っています。

●道路ぞいに家がある人は、庭木など大幅に伸びている家もあります。見通しがわるくてゴミステーションに出向くとき、大変困ります 近所の人が県などに通告すると悪者になるので県の車輪も通ってるのでしっかり見て注意のしてもらいたいと話をしているんです。素通りでなく見回して状況を見て下さいを言いたいです。90才の女の方がゴミ出しに行くときあぶないと言ってます。

●ヘルプマークについて今年知ったばかりで以前からマークは気になっていたのですが、くらし、生活上知らないことが多くてもくらししてきたことに気がつきました。

●自分の事だけではなく相手を思いやる気持ちがひとにやさしいまちづくりに繋がっていく事なのだと思います。お年寄りや体の不自由な人たちが生活しやすいまちは、すべての人が生活しやすいまちなんだなと思いました

●車いすの介助をするようになって半年しかたっていませんが、不便なところの多さが目立ちます。信号機など、道路を横断するのも一苦勞だと分かりました。もっと色々な人に合わせてまちづくりをしてほしいです。

●現在は、マイヤ滝沢店において、認知症・高齢者を支援する「マイヤ滝沢店スローショッピング」のサポーター活動を行っている。当事者は、家族による送迎を受けて参加している人がすべてであり、一人生活の人がショッピングに参加する為の交通手段補助制度を検討してほしい。